

# おおせっからんど便り

2016年  
5月

ラムサール条約ワイズユースの理念に基づき 環境保全活動 普及啓発活動 環境保全型産業の支援をします



コヨシキリ 撮影：松原一男

## 行事のお知らせ

| 月日（曜日）  | 集合時間と場所         | 内容                                                    |
|---------|-----------------|-------------------------------------------------------|
| 5/21（土） | 9:00 道の駅みさわ郵便局前 | 第10回 仏沼クリーン作戦<br>・米海軍環境ボランティア、三沢市、三井住友火災海上ラムサールサポーターズ |
| 6/25（土） | 17:30 野鳥観察小屋    | 一斉調査 タベの集い                                            |
| 6/26（日） | 4:30 野鳥観察小屋     | オオセッカー一斉調査（カウント）                                      |

### NPO 会員になって環境保全活動に参加・支援ができます

- 入会金 なし
- 会費 サポート会員 2,000円（年額） 正会員 5,000円（年額）
- お申込み：（事務局まで）

◆◆◆◆ 企画・記事の募集 広報制作スタッフに参加しませんか ◆◆◆◆  
観察会の感想・エッセイ・イラスト・俳句・写真などお寄せください。

発行者：特定非営利活動法人おおせっからんど 事務局：〒039-2241 青森県八戸市市川町字桔梗野上 19-137  
ホームページ：http://www.oosekka.com/ E-mail：jimukyoku@oosekka.com

## 江戸家 猫八さんと仏沼

昨年、仏沼ラムサール湿地指定10周年のイベントに来て頂いた、江戸家猫八さんが今年2月にお亡くなりになりました。私達にとっては動物の鳴きまねの猫八さんというよりは、鳥や自然をこよなく愛された方に思われました。猫八さんはまだ江戸家 小猫の時代に仏沼に来られたことがありました。私達の案内で仏沼を回られ、オオセッカやコジュリンの声に耳を澄ませて、バードウォッチング アンド ヒアリングを楽しんでおられました。帰り際にカンタン(昆虫)が草地で鳴いているのに気付くと、そこにかがみこんで耳を近づけて感動して聞いている姿が、今も心に残っています。単に鳴き声を聞いて覚えるというのではなく、どんな環境の中で鳴いているのかをしっかりとらえて、鳴きまねをする時にはその鳴き声を通して、聞いている人に森や草原の風景まで連想してもらえることを目指しているような、非常に奥が深い芸の一端を感じました。昨年、来られた時もホテルを朝早くに出られて、仏沼の鳥達の賑やかな朝のコーラスを時間の経つのも忘れて聞き入っておられました。

案内した蛭名さんからイスカのことを聞いて、ぜひ秋にイスカを見たいので案内してほしいとお願いされ、また青森に来ることを楽しみにされていました。イスカのシーズンになっても連絡が無く、きっと忙しくてこちらに来る時間がとれないのだろうと思っていましたが、今考えるとその頃から体調を崩されていたのかも知れません。イスカの声の聞きたいと熱っぽく語っていた姿が今も目に焼き付いています。野鳥や動物の鳴き声を通して自然の大切さを訴え続けた猫八さん、ヒバリが天高く囀っているのを空からニコニコ笑って聞いているように思えてなりません。

津曲 記



### ウシガエル駆除活動について

2016年のウシガエル駆除は6月18日から始め、12月23日まで計54日(そのうち北里大学自然界部が2日間一部のカゴのみを行った)、行い、成体43匹、幼体1143匹を捕獲、駆除をした。

昨年に比べると捕獲数はかなり少なくなった。その理由としては広い面積で水深もあるウシガエルにとっては好条件な第2平成の水を抜いたためと推測される。10月17日までは三角池にもカゴを設置していたが、鳴いていたと思われる成体1匹を捕獲した後、成体、幼体ともに確認できなくなったためカゴを撤去し、第1平成池に移動した。



完全な駆除は難しいと思われるが、毎年、地道に駆除を続けていくことが必要である。その他、現在、三角池には生息していない。三角池は水生昆虫の宝庫である。そこだけは阻止しなければならない。現在は私と津曲副理事長と二人で行っているが、これからはぜひ皆さまのお力も借りて少なくするようにしたい。

ご協力をお願いいたします。(蛭名純一)

## KODOMOラムサール（東北湿地交流会）

蕪栗沼・周辺水田のラムサール登録 10 周年の記念事業として開かれたラムサールフェスティバルに合わせて、KODOMOラムサール（東北湿地交流会）が宮城県大崎市で 11 月 21 日に開催されました。三沢市からも仏沼代表として三沢市立おおぞら小学校の子ども達 3 名が参加しました。当日朝、三沢市環境衛生課の方に引率されて新幹線で古川へ、田尻の会場に着くとそこはもう東北ラムサール湿地代表の子ども達で熱気ムンムン！地元蕪栗沼・化女沼（おおさきいきものクラブ）、伊豆沼・内沼（登米市）上池・下池（山形県鶴岡市）そして仏沼（青森県三沢市）の代表メンバー 18 人の子ども達が勢ぞろい！それぞれの地域の紹介と取り組みを発表して理解を深めた後、「蕪栗沼・周辺水田」の宝とメッセージを考えました。



その後、地元農家の話を聞いたり田んぼの生き物調査を体験し、蕪栗沼で数万羽のマガンのねぐら入りを観察しました。翌日 22 日はラムサールフェスティバルの会場で昨日考えた「蕪栗沼・周辺水田」の宝とメッセージを公開討論、おおぞら小学校の子ども達も活発に意見を述べて、応援にかけつけた保護者の皆さんも満足げに聞いていました。宝には「マガンの群れ」や「生き物が生息しやすい豊かな水田」「ふゆみずたんぼ」などが宝に選ばれ、「人間と自然が生きるきせきの蕪栗沼をみんなで支えて行きます」のメッセージが決まり、ポスターに載せて大崎市長に手渡しました。子どもたちの胸にはたくさんのマガンが飛び交う蕪栗沼の自然と、それを暖かく見守る大崎の人々の笑顔が深く刻まれたことと思います。22 日のラムサールフェスティバルでは鷲谷いづみ先生の「蕪栗沼や田んぼの役割と魅力について」の基調講演があり、午後は地域で活動している 5 人のパネラーによる「今後 10 年の展開について」のパネルディスカッションが行なわれ、最後に宣言文の発表が行なわれ終了となりました。

### 平成 28 年度（第 14 期）NPO 法人おおせっからんど総会報告

当法人の通常総会が H28 年 4 月 3 日に、三沢市先人記念館で開かれた。例年だと 5 月中旬頃の開催だが今年は事務局の日程もあり早い開催となった。正会員 17 名（出席 9 名 / 署名提出 8 名）で会の運びになり冒頭、体調不良のためやむをえなく出席できなかった古川理事長に代わりに津曲副理事長より挨拶があった。挨拶の中では正会員・サポート会員一人一人とクリーン作戦・一斉調査等活動に対し協賛参加協力していただいた三井海上住友様・三沢米軍基地様・三沢高校様等多数の協力において広く活動できたことに感謝し総括した。続いてそのまま津曲議長にて進行。麦沢事務局長より、H27 年度の事業報告では例年の調査活動・ラムサール 10 周年記念事業参加・他活動法人との交流会・会議への出席の報告と会計報告があった。次に監事 高橋氏より監査報告があり、全員拍手をもって承認された。続いて H28 年度の計画案に入り事務局案を麦沢事務局長が説明、昨年までとは違い受託事業が現時点でない事を報告し意見提案を求めた。中で仏沼の小排水路の改修提案・広報作成・清掃活動の協力要請と活発意見がでた。年報の作成・三沢航空科学館展示会の写真の更新取り換え・事務局費の予算の計上等あり承認された。次に役員改選があり二人が加わり 6 人体制となった。その後、引き続き古川理事長のもと全員協力体制を再確認し総会は終了した。（総会資料は HP に掲載しています。）



# インベーター（侵略者）：オオハンゴンソウ・ウシガエルから仏沼を救え！

オオハンゴンソウは北アメリカ原産のキク科の植物で日本全国の道端や線路沿い、河川敷などいたる所に繁茂している。根から他の植物の成長を阻害する物質を分泌して勢力を広げるため、日本に昔から生息する野草が姿を消していく状況にある。また、ウシガエル（食用ガエル）も県内に広く分布し、大きな口で水中の小動物を食いつくしてしまう大型の外来種である。環境省では日本の生態系や農水産業・人の生命に被害を及ぼす恐れのある外来生物の中で特に規制・駆除の対象とするものを「特定外来生物」に指定している。近年仏沼にはこのうちの2種が侵入しているため、オオハンゴンソウは抜き採りで、ウシガエルは成体、幼生とも、わなカゴで捕獲駆除を行なっている。

## 岡山県レッドデータブックにオオセッカが記載されました

平成26年3月 岡山県のレッドデータブックにオオセッカが追加されました。これまで岡山県内では観察例がわずかにあったのですが、詳細な調査をしたところ、局所的ではありますが3期連続・複数個所での越冬が確認されました。今のところ生息が確認できているのは数羽程度で絶滅寸前状態ですが、これを機に西日本での調査が進展することを願うばかりです。今回の掲載にこぎつけたのも、おおせっからんどのみなさまに色々と教えて頂いた賜物です。（多田英行）

|                                                                                                                                                                                                               |                           |                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|----------------|
| <b>オオセッカ</b><br><i>Locustella pryeri pryeri</i> (Scebohm)                                                                                                                                                     | 岡山県：絶滅危惧Ⅰ類<br>環境省：絶滅危惧ⅠB類 | スズメ目<br>センニュウ科 |
| <b>選定理由</b><br>県内の既知の生息地は数か所で、個体数は少ないと考えられる。環境変化や植生遷移などによって容易に生息地が失われることから、生息地の保全が必要である。                                                                                                                      |                           |                |
| <b>存続を脅かす要因</b><br>湿地開発、池沼開発、ヨシ原の乾燥化                                                                                                                                                                          |                           |                |
| <b>分布状況</b><br>日本では東北から関東にかけて局所的に繁殖する。冬期には主に関東から東海にかけて越冬し、瀬戸内海沿岸は越冬地の西限域と考えられている。岡山県は本種の越冬地であり、冬期に県南のごく一部のヨシ原で生息が確認されているが、過去に十分な生息調査が行われておらず、生息に適したヨシ原の多くは環境変化などによって消滅した可能性がある。                               |                           |                |
| <b>生息情報</b><br>ゼッカより少し大きく、体の上面は褐色で背には黒色縦線があり、体の下面は淡褐色。湖沼や河口周辺の湿地や、後背湿地や休耕地などのような平地の湿地に生息している。冬期にはスゲ類などの下層植生のある湿潤なヨシ原に生息しているが、ヨシ原の外に姿を現すことはまれで、鳴くこともほとんどないため観察は困難。主に昆虫やクモ類を捕食する。<br>国内での生息推定羽数は2,500羽強といわれている。 |                           |                |
| <b>特記事項</b><br>種の保存法：国内希少野生動植物種<br>鳥獣保護法：希少鳥獣<br>日本固有亜種                                                                                                                                                       |                           |                |
| 文献番号 1, 2, 3, 5, 6, 7                                                                                                                                                                                         |                           |                |

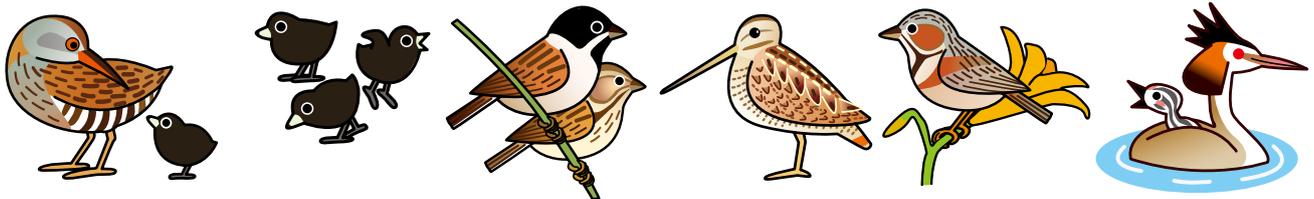
(丸山健司・多田英行)



撮影：宮 彰男

## 三沢市出身のデザイナー中居 稔氏から野鳥イラストを寄贈いただきました。

現在は千葉県に在住し、おおせっからんど会員の中居 稔さんをお願いして仏沼に生息する野鳥のキャラクターデザインを無償で提供していただきました。今後のNPO活動に役立てていきたいと考えています。



事務局

### 第14期 NPO 法人おおせっからんど役員

- 理事長 古川 博 (重任)
- 副理事長 津曲 隆信 (重任)
- 理事 麦沢 勉 (重任) 事務局長
- 理事 蛭名 純一 (重任) 主任研究員
- 理事 宮 彰男 (新任)
- 理事 佐藤 昭弘 (新任) 事務局 (会計)
- 監事 高橋 清法 (重任)

(平成28年4月3日(日) 通常総会で決定)  
ラムサール条約の理念に基づいたNPO活動をすすめてまいります。よろしく願い致します。

- ・ 仏沼の湿地環境の保全を考えています。
  - 1) 外来生物の駆除・侵入阻止
  - 2) 適正な湿地の保全策を考えてすすめる
- ・ 仏沼の利活用として環境教育を推進します。

### <展示の情報>

- ・ 5月20日～7月3日 (県立郷土館にて)  
コウモリの不思議 (向山満コレクション)  
平成28年度青森県立郷土館企画展